



避難所の対応 今後の課題は

二藤部 冬馬 議員

避難所の運営は 非常に困難だった

町長



携帯電話は今や命綱！

避難所の対応
 町長 コロナ禍における避難所運営は非常に困難であり、避難者の3密回避は難しかった。
今後の課題は、
 町長 資機材の充実、ボランティアの活用、自主避難を積極的にお願いするなどの取組みを進めていくことが重要。
 氾濫危険水位の中、一時帰宅してしまう避難者もいたが、情報伝達・共有はどうだったか。

町長 避難所においては、水位・災害状況等の情報が届かず、不安であったとの声もある。安心できる仕組みを確立していきたい。防災放送のテレフオンサービス等も検討している。
総務課長 エリアメールは制約があり、水位等の情報は入れられないが、SNS等を使って情報を提供する必要がある。
段ボールベッドの保管場所。
 町長 車庫、消防分署、虹のプラザ等を検討しているが、避難所にあるのが一番であり、教育委員

会とも話を進めていく。
教育長 保管できる数や場所も含め、各学校に検討してもらっている。子ども達の活動場所を狭めてまで保管することは考えていない。
無料WiFi、充電器、テレビ等の資材確保は可能か。
総務課長 業者等と相談し、必要な時、すぐに準備できるように検討していきたい。



3密回避は難しい(中学校体育館)7/29午前

教職員の労働環境
教職員の超過勤務等、労働環境の状況は、
教育長 超過勤務への意識も高まり、昨年と比較しても減少が見られる。超過勤務等の状況がもとに戻ることのないよう、進めていきたい。



いざざわ 五十沢川からの越水による被害(今宿地区)



大災害を受け 家屋や施設をどう守る

遠藤 宏司 議員

今後、築堤等を強く要望していく

町長

住民の立場で河川管理

国や県と今後どのように協議していくのか。
 町長 河川の水位上昇により住居浸水や農地冠水の被害があった。河道掘削や支障木の伐採等適正な河川管理が必要。溢水が発生した箇所の築堤とこれら原因を究明することでの有効な対処事業の早期実施について、国や県に強く要望していく。
豊田地区や今宿地区の溢水したところに堤防を整備し、家屋や上水道の水源井戸等を水没から守り、断水が起きないようにすべき。
 町長 豊田地区浸水につ

いては最高水位を考慮した築堤を要望し、応急対応として早急に大型土嚢を設置するよう要望している。今宿地区の浸水は五十沢川の上流の越水によるもの。堤防の嵩上げ等、県に要望している。
金川や下の川、川端地区の内水処理は、排水能力が十分にある常設の排水施設が必要ではないか。
町長 金川については常設の整備は難しいとの判断。排水ポンプ車の増強を継続して要望している。
 下の川については、湛水防除事業があるが、24時間冠水が継続する箇所や、農作物被害が甚大であることが条件となり、



金川から内水の排水作業(7/29)

障がい者への配慮
 高齢者や視覚・聴覚に障がいのある方へ、情報の伝達方法や避難の支援、災害後の生活支援を、今後どのように取り組んでいくのか。

町長 いろいろな意見をいただいている。今回は十分とはいえない状況であった。伝達が難しい方や自力で避難が難しい方のリフト化を行い、確実に伝わる方法を検討する。関係機関や団体と協力しながら、共助の機能を活かした避難支援に取り組んでいく。今後もしっかりと高齢者や障がいのある方を見守っていく。